

里地里山保全・再生の特徴的取組 個票 A (対象地域の概況)

NO.74	三瓶山(さんべさん) (東の原)		生物地理区分		コナラ林(西日本)	
			地域区分		奥山周辺	
所在地	都道府県	島根県	地形条件	1.山地	2.山麓部	3.丘陵・台地
	市町村	大田市		4.低地	5.その他	
	集落名称等	三瓶山(さんべさん) 国有林 林小班	環境要素	1.二次林	2.草地	3.水田
				4.畑	5.小川・水路	6.ため池
7.池沼・湿地	8.社寺林	9.人工林				
10.その他						

環境要素(対象とする地域に含まれる環境要素)

:面積割合が最大のもの :それ以外の環境要素

自然環境・景観保全、国土保全関連の法指定状況	自然環境、景観、文化等の観点からの選定・評価
国立公園	多様な主体が協働して、草原性の野生動植物の保護が図られているため、島根県では「みんなで守る郷土の自然」地域に選定している。
特徴的な動植物や生息環境	対象地の景観の現状
草原環境： ウスイロヒョウモンモドキ(国内分布の西限) ダイコクコガネ マツムシソウ これらの種は、法律や条例で捕獲、採取が禁止されている。	自然公園や景観保全のための地域指定がある



写真の説明：ウスイロヒョウモンモドキ(しまねレッドデータブック HP より)。三瓶山東の原には、このほかにも多くの草原性の希少野生動植物が生息・生育している。

写真の説明：ウスイロヒョウモンモドキ保全活動。東の原生息地拡大のための草刈り作業(島根県 HP「平成 19 年度ウスイロ保全活動」より)

NO.74		三瓶山(さんべさん) (東の原)		取組 主体	1.地域コミュニティ(集落・組合等)
所在地	都道府県	島根県			2.団体・企業・学校等
	市町村	大田市			3.行政による支援施策の活用
	集落名称等	三瓶山(さんべさん)国有林 林 小班			4.多様な主体が参加・連携する組織体
				5.その他	

取組 主体	主な主体の名称	ウスイロヒョウモンモドキ連絡会議		
	その他の主体の名称			
目的 : 主 : その他	<b>3.環境教育や自然体験、エコツーリズムの場としての利用</b>			
	自然観察会			
	環境教育・学習活動	*	地元の小学生などとともに、ウスイロヒョウモンモドキの幼虫の食草である、オミナエシ、カノコソウの植栽を行っている。	
	里地里山体験・環境保全	*	ウスイロヒョウモンモドキの生息環境に適した草原環境を維持、創造するために草刈り等を行っている。	
	農林業体験活動			
	エコツアー			
	その他			
	<b>4.野生動植物やその生息地の保全・管理</b>			
	取組内容	毎年、成虫発生時期(6月末~7月中旬)に専門家によるモニタリング調査を実施。成虫から卵を採取し、人工飼育した幼虫を放虫する。 東の原生息地では、草原環境を維持するため、草刈りや幼虫の食草を植栽する。主な食草は、中茎のススキ草原の下に生育するオミナエシで、吸蜜植物は主にオカトラノオ。これらの活動によっていったんは個体数が回復したが、台風等の影響によって個体数が再び減少傾向にある。		
	<b>5.地域の良好な景観の保全・修復</b>			
	取組内容			
連携・協働による取組 内容・役割分担等		年度当初に関係機関、NPO、地元自然保護団体等で組織されたウスイロヒョウモンモドキ連絡会議を開催し、当該年度の保全計画を策定した上で、保護活動を実施する。 役割分担 {成虫発生時のモニタリング(島根大学、県立三瓶自然館、県) 卵の採取、幼虫の人工飼育(島根大学) 幼虫の放虫(全機関・団体) 草刈り、食草の植栽(全機関・団体・地元の小学生)}		
取組の特徴や強調したい点		前年度のモニタリング結果を基に、新年度の保全計画をウスイロヒョウモンモドキ連絡会議で話し合い、決定する。		

取組の概要	草原環境維持を通じた、ウスイロヒョウモンモドキの生息環境 保全・管理	課題グループ  野生生物 学習体験 仕組
事例の特性	草原性希少野生動植物の保全・管理	
取組の中で他の地域の参考となる点	希少種ウスイロヒョウモンモドキの県内唯一の生息地である草原を維持するため、行政、NPO、大学、地元小学校等が役割分担して調査、人工飼育、放虫、食草植栽などの作業を行っている。	